

新年のご挨拶

— ネットワークとバックアップ —

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

さて、去年は当院にとって変革の1年でした。1月には高性能のMRI(1.5テスラ)に更新し、4月には常勤・非常勤あわせて25名の職員を増員して医療の質の向上に対応しました。7月からは連携医制度をスタートさせ、11月には連携医大会を開催して太田栃木県医師会長や稲野宇都宮市医師会長にもご出席いただきました(写真)。お陰様で紹介率や逆紹介率は大幅にアップしており、病院の中期計画(ロードマップ)の1つである「地域医療支援病院」の承認も確実に視野に入ってきています。

一方、平成25年1月には電子カルテ導入と高解像能マルチスライスCT(64列)の稼働により、医療の効率化と高度化を目指します。さらに、「栃木県がん治療中核病院」の指定(平成24年12月27日)に伴い、増加する一方のがん患者さんに適切な医療を提供できるよう診療体制を一層充実させます。

このように変化の時代は今年も続く訳ですが、地域医療(がん・救急・認知症など)と政策医療(重症心身障害・神経難病・結核など)の実践におけるキーワードは「ネットワーク」と「バックアップ」です。なぜなら、関係者相互の密接な連携とそれを補完する支援体制が、「治す医療」と「支える医療」の両者にとって必要不可欠と考えるからです。

政治や時代がどんなに変わろうとも、私たちがなすべきことは変わりません。当院が目指すのは「安全で質の高い医療を患者さんの視点に立って提供すること」であり、「患者さんや地域から信頼され職員にとっても働き甲斐のある病院の実現」です。地域の医療機関や介護・福祉施設等との連携をより一層推進させながら、地域医療と政策医療に貢献すべく努力いたしますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

